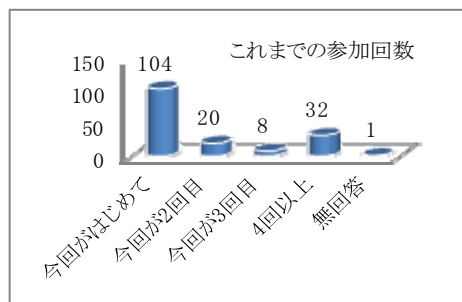
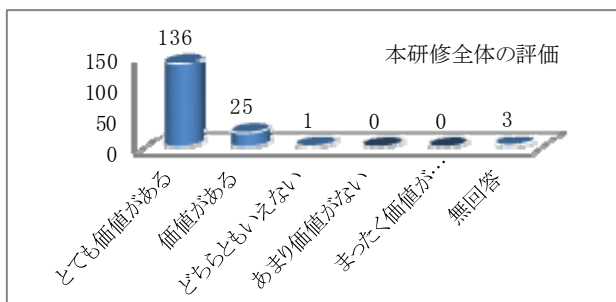


2018年度 E.FORUM「全国スクールリーダー育成研修」 実施の様子 1

京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター E.FORUM では、2018年8月17日（金）・18日（土）に、京都大学吉田キャンパス法経済学部本館法経第四教室他において「全国スクールリーダー育成研修」を開催しました。当日は、北は宮城県から南はシンガポールまで計188名（1日目169名、2日目161名）の教職員や教育委員会関係者の方々が参加し、盛会のうちに終えることができました。

【アンケート集計】（回答者 165名）



<1日目> 8月17日（金）

●オープニング&自己紹介

研修運営担当の西岡加名恵教授から本研修の概要説明をしました。参加者同士の自己紹介タイムを設け、全国各地から来られた方々の熱気が溢れる中でスタートしました。その後、午後の前半にかけては、3つの分科会（分科会A・B1・B2）に分かれ、講義・ワークショップを行いました。



●分科会A：「カリキュラム設計入門——教科におけるパフォーマンス課題づくり」

担当：西岡 加名恵 教授

学習指導要領改訂のキーワードを解説するとともに、パフォーマンス課題の作り方について説明しました。その後、実際に参加者にパフォーマンス課題づくりを体験していただきました。最後にルーブリック（評価指標）の作成方法についても説明しました。



<参加者の声>

・ワンステップずつ理解したうえで、実際に課題を設定していくプロセスは非常に分かり易かったです。

- ・パフォーマンス課題と評価をとり入れようという動きの中で、いまひとつ意味がわからず困っていたが、今日話をお聞きしてどこから始めれば良いかわかった気がする。
- ・初めての参加でしたが、パフォーマンス課題について教えていただき、すぐに授業で実践したいと思いました。問いの仕方についても、教師の出す問いによって子どもたちの考えを広げることができるということを改めて知ることができました。
- ・セッションを受けながら、近くの先生方と相談、指摘しつつ新たな授業づくりに挑戦することができ、有意義でした。他教科の例を多くみられることは大きな刺激です。
- ・参加するまでは「勉強しなくては」という思いが強かったが、講義を聞いて「勉強したい」に変わった。

●分科会 B1 : 「若い教師に伝えたい授業づくりの発想」

担当 : 石井 英真 准教授

授業づくりの骨格となる思考のフレームを紹介するとともに、教材研究をどう進めるか、学習者のつまづきをどう読み解くかといった、授業づくりにおける基本的な考え方について、ワークショップ的な演習を通して学びました。また、「教科する(do a subject)」授業をキーワードに、授業づくりの今後の方向性についても解説しました。



<参加者の声>

- ・ベテランと若手が最も違う点がどこなのか、ぼんやりと分かっているつもりだったところ、覚醒の感がありました。授業づくりについて校内研修をやりたいと思っていたところだったので、すぐに取り組みたいアイデアが湧いてきました。
- ・内容の濃い、また多くのポイントがあり、参考になりました。整理してメインターゲットを絞り、教えたいことを生徒達にアクティブに取り組ませるための揺さぶりができる授業をつくれるよう、動き始めたいと思います。
- ・若手を育てるための視点が増え、取り入れたいことを多く見つけることができました。また、自分自身の教材や子どもへの向き合い方を考えることができた。

●分科会 B2 : 「カリキュラム・マネジメントとの向き合い方」

担当 : 服部 憲児 准教授

政策動向や関連事項について確認した上で、SWOT 分析を用いながら、カリキュラム・マネジメントの方向性を検討しました。



<参加者の声>

- ・SWOT 分析を周りの方々とやってみて、「これは校内研修でぜひやらない」と思った。
- ・正直、学校が何を目標としているのかを深く考えていなかったが、それを考える良い機会になった。
- ・「社会に開かれた」という語句が示す状況のイメージが持てた。
- ・カリキュラム・マネジメントという概念のとらえ直しができた。
- ・グループワークの中で、小・中・高に関わらず学校教育目標が曖昧すぎるという課題が浮かび上がり、問題点が見えました。

● 研究科長挨拶

稲垣恭子研究科長よりご挨拶いたしました。

**● 講演：「ワーキングメモリを鍛えることができるのか？」****講師：齊藤 智 教授**

近年、ワーキングメモリのトレーニング研究で明らかになった事実と問題点を紹介し、今後の検討課題についても議論を深めました。

**＜参加者の声＞**

- ・先生と一緒に課題を探究したような感じを受け、とても楽しかった。科学で捉えきれないものの可能性が実践の中にはありそうだと感じた。
- ・講演後にワーキングメモリに繋がる場面が多く、納得することができた。
- ・これまでやってきた問題点が明白になった。語彙を増やすのが正道だと思った。
- ・知識の習得がワーキングメモリをフォローすることは直感的に感じていたが、今回データと共に見せていただき安心した。発達に課題を抱える生徒たちへの支援を考えてみたい。
- ・とても興味深く聞かせていただいた。人を対象とした研究の難しさを感じた。
- ・教育現場での実践に活かせるような内容が含まれていて良かった。
- ・ワーキングメモリが何か、その不足がどのように困るのかよく分かっていなかったが、講演を聞いてよく理解できた。

以下、pp.30～37 に齊藤智先生による講演「ワーキングメモリを鍛えることができるのか」資料を掲載しております。